



令和6年度 NO.5

# 新中だより

令和6年11月2日  
新庄市立新庄中学校  
連絡先 新庄中学校  
Tel. 22-1555  
文責 校長 近内孝哉

先の大戦における戦没者に対し、追悼の誠を捧げるとともに、恒久平和を祈念する山形県戦没者追悼式が、吉村山形県知事同席のもと、令和6年10月30日、新庄市民文化会館で行われました。この式典では、通例、小中学生による作文の朗読が行われますが、このたび、当校2年武田 東子 さんが、その大役を務めました。第5号では、朗読された作文の全文を掲載します。この機会を与えてくださった新庄市成人福祉課の皆様はじめ関係の方々から心から御礼申し上げます。英霊への鎮魂と平和への誓いを込めて。

## 「平和」という言葉が使われなくなるまで

二年 武田 東子

戦争があるから「平和」という言葉を使う。無残な戦争がこの世になかったら「平和」という言葉は使わなくてよい。

これはユネスコ親善大使を勤めている茶人、千玄室さんの言葉です。千玄室さんは、八十一年前に特攻隊員として戦争を経験されました。特攻隊とは、重さ二百五十kgの爆弾を積んだ戦闘機に乗り、自らの命を犠牲にして特攻する部隊のことです。千玄室さんは生きて帰ることができましたが、仲間の多くは亡くなられたそうです。「自分たちが犠牲になることで、家族が助かるのならそれでいい。」まだ大学生だった千玄室さんの、家族を想う気持ちを考えると、胸が締め付けられるように感じます。

みなさんにとって「平和」とは何ですか？家族と食卓を囲んでおしゃべりする。好きな映画を見てのんびり過ごす。私はそんな日常を思い浮かべます。ですが、千玄室さんにとっての平和は、戦争を知らない私たちとは違い、戦争そのものと直結しているように感じました。

戦争は、戦地で戦った人だけが関係しているわけではありません。

今年の夏、私は新庄市立図書館で開催された「せんそうとへいわのおはなし会」に参加し、語り部の方々から戦時中のお話を聞きました。食べ物が無いために、幼い自分の子どもを箱に入れて捨てた話。女性だと気づかれないように坊主頭にした話。空襲警報に怯えながら家族で逃げ回った話。初めて聞く数々の悲惨なお話は、今の日本からは想像しがたいものでした。「戦争は二度としてはいけない。」語り部の方々の強いまなざしが印象に残っています。

しかし現在、世界では戦争や紛争が各地で起こっています。連日、住み慣れた街が爆撃され、数多くの死者が出たと報道されています。残酷で人を不幸に陥れるだけの戦争はなぜ繰り返されるのでしょうか？領土、民族、宗教、そして、政治。私にはよくわからないこともたくさんあります。ですが、わからないからといって目を背けたくはありません。どんなに難しくても、それを他人事にせず、私は戦争と向き合っていきたいです。

世界から戦争がなくなるために、今を生きる私たちにできることは何だろう？すぐに答えを出すことはできませんが、それでも私なりの答えを探していきたい。そして、いつか「平和」という言葉が世界から忘れ去られるほどの、そんな平和な日々が来ることを心から願います。

結びに、かけがえのない命を失われた戦没者の方々のご冥福と、戦争で大切なご家族を亡くされたご遺族の方々のご健康を心からお祈りいたします。